

ピロリ菌検査のオプションについて

ヘリコバクター・ピロリ菌は、胃潰瘍・十二指腸潰瘍・慢性胃炎・胃がんなどの病気と関連があるとされています。

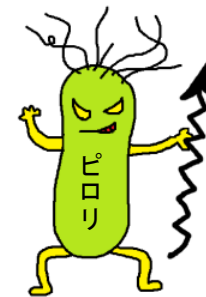
平成25年2月より、**ピロリ菌陽性の胃炎のすべての方に**、保険診療でピロリ菌に対する治療が保険診療で行えるようになりました。ピロリ菌を除菌することで、胃がんの発生率は約3分の1になるといわれています。

▶▶▶▶ピロリ菌除菌を保険診療でするには以下の2つの条件を満たす必要があります▶▶▶▶

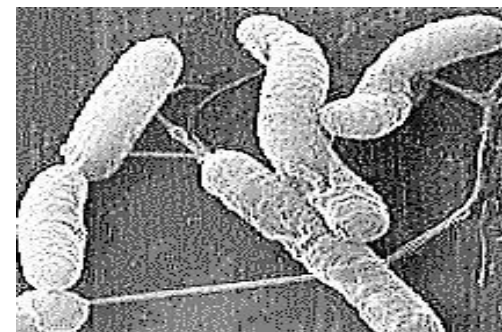
- ① 1年以内に胃カメラをして、ピロリ菌陽性胃炎と診断されること。
- ② 1年以内にピロリ菌陽性が証明されること。

以下の方は、ピロリ菌に感染している可能性が高いです！

- ★長期にわたる胃の不快感がある。
- ★50歳以上である。
- ★今までに胃の検査を受けて、萎縮性胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃がんなどと診断されたことがある。
- ★今までにピロリ菌に感染していると言われたことがある。
- ★家族の中にピロリ菌に感染した人、もしくは胃潰瘍や胃がんと診断された人がいる。



ピロリ菌です →





◆◆◆◆◆下記のようなピロリ菌関連の検査を行っています◆◆◆◆◆

★血液ピロリ菌抗体検査 (2,160 円) ⇒ 胃の中にピロリ菌がいるか調べてみたい方

◆以前陽性の方で除菌治療をしていない場合はずっと陽性です。

【ごく稀に陰性になることはありますが、毎年検査する必要はありません。ただし、除菌治療前には1年以内の検査が必要です】

◆以前陰性の方は、基本的にはずっと陰性です。

【ごく稀に陽性となることがありますが、毎年検査する必要はありません。】

◆除菌に成功していても、この検査は5年間位は陽性となります。そのため、過去に除菌された方には不向きです。

★胃の健康度検査 (血液ピロリ菌抗体検査+血液ペプシノゲン検査 (4,320 円))

⇒ ピロリ菌検査に加えて、胃がんになりやすい胃になっているかどうか(萎縮性胃炎の進行度)を知りたい方。

◆消化管疾患治療中の方、胃切除後の方、ピロリ菌除菌後の方、高度の腎障害のある方、胃酸を抑える薬を内服中の方は、正確な結果がでませんので、検査対象外となります。

◆胃の萎縮は、1年程度ではあまり変化しません。一度受けた方は、この検査は5年に1回程度でよいと思われます。

★便中ピロリ菌抗原検査 (3,240 円) (この検査は当日の受付となります)

⇒ 以前に除菌治療を受けている方で、現在の状態を知りたい方

◆便にピロリ菌の成分(抗原)が含まれていることを利用した検査法で、ピロリ菌が胃内に現在感染しているかどうかを調べます。

◆以前にピロリ菌の除菌治療を受けたが、

- 1.)除菌に成功したかの検査をしていない方、
- 2.)除菌後の検査結果が不明の方、
- 3.)除菌に成功したといわれているが、陰性のままかどうか再度調べてみようと思う方

(ちゃんと除菌できていても、1年たつと100人中1人くらいの方で再度陽性になるといわれています)

◆血中ピロリ菌抗体検査の結果を再度確認したい方(血液ピロリ菌抗体検査の正確さは95%くらいです)

◆ドック当日に受付します。ドック受診後1週間以内に提出してください。

◆検査結果は、ドック結果報告書と一緒にお知らせします。

